

# 神大スポーツ

# KU

2019年7月1日 (第33号) 月曜日

発行:神奈川大学  
協力:神奈川大学体育会本部

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1  
TEL045-481-5561

## ユニバーシアード初出場!!



4月27日(土)・28日(日)に開催されたJOC杯2019年度全日本ジュニアレスリング選手権大会(国際経営・2年)が大会2連覇を達成。また優秀選手としてオリンピックゴールドメダル賞を受賞し、自身2度目となる、世界ジュニア選手権大会(以下世界ジュニア)の日本代表に選出された。



### 古林 穂菜

水泳部

4月27日(土)・28日(日)に開催された第95回日本選手権水泳競技大会(以下日本選手権 兼第18回世界選手権大会代表選手選考会兼第30回ユニバーシアード大会水泳競技代表選手(以下ユニバーシアード)選考会にて、古林穂菜選手(経済・4年)が女子50m背泳ぎ5位、100m背泳ぎ3位、200m背泳ぎ4位の好成績を残し、ユニバーシアード日本代表に内定した。

## 水泳部 SWIMMING



水泳部は古林選手に限らず注目選手が多く在籍する。日本選手権では、石坂夏鈴主将(人科・4年)が200m個人メドレー17位、望月絹子選手(人科・2年)が800m自由形4位、荒川葵選手(人科・1年)が50m自由形6位と数々の好成績を残している。また、昨年度の第94回日本学生選手権水泳競技大会(以下インカレ)においても、女子チームが創部初の準優勝を達成するなど、近年の成長が目覚ましい。石坂主将は「新一年生も結果を出している選手が多く、非常に良い雰囲気である。ただチームとして強くするために、4年生が責任と自覚を持って活動に取り組んでいく必要がある」と話してくれた。活動についても「毎週末に試合を控える選手も多いが、距離を泳ぐメニューが多くなっている。また学年ごとにミーティングを実施することで目標の確認をおこなっている」と石坂主将。続けて「ただ結果に結びつきにくい選手も中にはいる。種目別で練習をすることが多いが、時間があるときに積極的に声掛けを行い、選手のメンタル面をサポートしている」と話してくれた。主将を中心に、フィジカル・メンタルの両面のコントロールを徹底することが、水泳部の強さの秘訣なのだろう。



# 日本代表選手特集

## 世界ジュニア選手権 アジアジュニア選手権

## 日本代表!!

# JINDAISPORTS



### 奈須川 良太

レスリング部

最後に「世界ジュニアでは必ず表彰台に上りたい。会場の雰囲気にも負けないよう、全力で試合に臨み、去年以上の成果を持ち帰れるようにしたい」と熱い思いを語ってくれた。世界ジュニアで表彰台に立っている姿を期待したい。

4月27日(土)・28日(日)に開催されたJOC杯2019年度全日本ジュニアレスリング選手権大会(国際経営・2年)が大会2連覇を達成。また優秀選手としてオリンピックゴールドメダル賞を受賞し、自身2度目となる、世界ジュニア選手権大会(以下世界ジュニア)の日本代表に選出された。

奈須川選手は「2連覇を達成でき、非常に嬉しい。ただ考え込みすぎて慎重になる場面も多かったが、世界ジュニアは改善して臨みたい」と振り返る。奈須川選手は、全試合を無失点、第一ピリオド勝利を収めており、向かうところ敵なしの状況である。ただ常に課題を意識し、自己成長に励んでいる姿に意識の高さを感じた。2度目の世界ジュニアを控えて「海外選手は、序盤から全力で攻め込んでくるが多く、自分のペースを崩されることが多い。全試合を乗り切る為にも、実践形式の練習を休みなく繰り返し、身体を作り込んでいきたい」と意気込みを聞かせてくれた。



### 佐川 健

レスリング部

最後に「アジアジュニアでは必ず表彰台に上りたい。会場の雰囲気にも負けないよう、全力で試合に臨み、去年以上の成果を持ち帰れるようにしたい」と熱い思いを語ってくれた。世界ジュニアで表彰台に立っている姿を期待したい。

同大会グレコローマンスタイル97kg級にて、佐川健選手(国際経営・1年)が準優勝に輝き、アジアジュニア選手権大会(以下アジアジュニア)への初出場を決めた。

佐川選手は「入学後初の試合であり、大学生のパワーの違いを感じた。準優勝できたことは嬉しいが、あと一步で優勝に届かなかった悔しさもある」と話してくれた。高校からレスリングを始め、好成績を残している佐川選手だが、神奈川大学レスリング部について「神大レスリング部の練習メニューはしっかりとっている。自主的に練習していかないと成長ができないと実感した。やらされるのではなく、考える練習にシフトしたい」と話す。大学1年生からしっかりと自主性を持って活動している姿が見受けられた。

## レスリング部 WRESTLING



最後に「今年度の目標は『大学日本一』である。インカレにおいても昨年度の成績を超える戦いをしたい」と熱く語ってくれた。今年もレスリング部から目が離せない。

神奈川大学レスリング部は、昨年度の文部科学大臣杯平成30年度全日本学生レスリング選手権大会(以下インカレ)において、過去最多となるメダル数を獲得や、4月2日(火)・3日(水)に開催された2019年度JOC杯ジュニアオープン女子フリー53kg級で、阿部ちひろ選手(国際経営・1年)が3位に入賞と、年々好成績を収めている。

山内壮主将(国際経営・4年)は「昨年度は、飛躍した1年となり、今年度はそれを超える活動をしていきたい」と語る。新入部員について「入部早々、大会で活躍する部員も多く、活気のある練習が日々送られている。高校生と大学生との違いをしっかりと理解し、自立した生活を心がけて欲しい」とも話してくれた。神大レスリング部は、自主性を非常に大事にしている。大学生活も練習も自立した行動を徹底していることが、強さの秘訣なのだろう。



# 世界で活躍する神大アスリート特集

## オリンピック代表候補!!

オリンピック代表候補で日本では、男女8人ずつしか選出されないショートトラックナショナル強化選手Aに、重弘喜一選手(人科・3年)、齋藤駿選手(人科・2年)の2名が選出。ナショナル強化選手Bに、吉田凧歩選手(人科・1年)が選出され、日本トップクラスの選手が多く在籍するスケート部スピード部門。

### 吉田 凧歩 齋藤 駿 重弘 喜一

スケート部スピード部門 スケート部スピード部門 スケート部スピード部門



1 ニングなど良い経験となった。今年度のISUワールドカップショートトラック(以下ワールドカップ)第三戦は日本開催なので、メダルを獲得して、日本のショートトラック競技を盛り上げたい」と語ってくれた。

齋藤選手は「2年連続でナショナル強化選手Aに選ばれているので、日本の代表としての自覚をしっかりと持ち、日々活動していきたい。今年度は、ワールドカップ全戦に出場したい」と目標を話してくれた。

吉田選手は「まずは、ナショナル強化選手Bに選ばれたことは意識せず、大学生活と練習のリズムを作っていく。今年度は、世界ジュニアショートトラックスピードスケート選手権大会でメダルの獲得とワールドカップに出場したい」と意気込みを聞かせてくれた。

部をまとめる阿部凌大主将(人科・3年)は「日本のトップ選手を輩出していることは非常に誇りに思う。自分自身の向上と併せて、しっかりと選手たちを支えていきたい」と話してくれた。近年注目度が高いスケート競技だが、今年も神大の選手が目指して観戦してはいかだろうか。



## 緒方 良行

山岳部

6月7日(金)・8日(土)に開催されたIFSCクライミングワールドカップ(以下ワールドカップ)ペイル2019男子ボルダリングにて、緒方良行選手(人科・4年)が4つの課題を全て完登し、ワールドカップ最終戦の場で自身初の優勝を手にした。

緒方選手は「前半戦のワールドカップや第14回ボルダリング・ジャパンカップでは、思い通りの試合が出来ず、不調が続いていた。ただ、今となっては思い返せば意味のある試合だった」と振り返る。「ワールドカップ最終戦は、予選会から非常に調子が良く、上位を常にキープすることが出来た。決勝の最終課題を完登した際は、嬉しさが込み上げてきた」と語る。緒方選手は、小学5年生からスポーツクライミングを始め、中学・高校では国体の常連であった。第10回ワールドゲームズ大会ボルダリング部門では、シニアを含めた国際大会で初優勝を飾るなど、輝かしい成績の持ち主である。昔から憧れていたワールドカップでの優勝をこの手にして、更に自信がついたことに違いない。



最後に「8月のIFSCクライミング・世界選手権2019は東京オリンピックの選考も兼ねる大事な戦いとなる。リード・ボルダリング・スピード3種目の複合種目が必須となる。強度の高い練習を実施していく。必ずメダルを取り、母国開催のオリンピックで活躍したい」と熱く意気込みを語ってくれた。今年、そして東京オリンピックで活躍している緒方選手の姿が非常に楽しみである。

## ワールドカップ初優勝!! 目指すは東京オリンピック!!

来た。決勝の最終課題を完登した際は、嬉しさが込み上げてきた」と語る。緒方選手は、小学5年生からスポーツクライミングを始め、中学・高校では国体の常連であった。第10回ワールドゲームズ大会ボルダリング部門では、シニアを含めた国際大会で初優勝を飾るなど、輝かしい成績の持ち主である。昔から憧れていたワールドカップでの優勝をこの手にして、更に自信がついたことに違いない。



## 世界ジュニアプレス選手権大会 5位入賞!!

池田 光咲

ボディビル部

5月18日(土)に開催された2019年世界ジュニアプレス選手権大会にて、ジュニア女子72kg級フルギアの部で池田光咲選手(人科・3年)が5位に輝いた。

毎年好成績を取っている池田選手が、今年も世界大会で結果を残してくれた。

池田選手は「5位という結果は非常に悔しく、納得のいかない結果であった」と振り返る。普段は、63kg級で戦っている池田選手だが、同階級の選手とのマッチングを避ける為、急遽階級を変更しての出場になったのだという。その中でも5位という結果は賞賛すべきところだが、妥協を許さない所に意識の高さを感じられた。昨年4月のじん帯断裂の大ケガの影響で、非常に楽しみである。

ベンチプレスのみでの出場を余儀なくされているが、池田選手は非常に前向きで、今後もベンチプレスの中で競技の幅を広げたいとのことだ。「現在は、フルギアのみでの出場だが、ノーギアでも世界で戦いたい。その為にも、世界で戦う選手達の練習をしっかりと観察し、自分で練習メニューを考え、仲間たちと切磋琢磨していきたい」と意気込みを聞かせてくれた。

最後に「今年も、ベンチプレス63kg・72kg級フルギアの部で日本記録を更新したい。またジュニアの間に世界ベンチプレス選手権大会で優勝する」と熱い気持ちを聞かせてくれた。今後も世界で活躍していく姿が、非常に楽しみである。



## 日本代表初選出!!

小酒部 泰暉

男子バスケットボール部

5月17日(金)に開催された第42回季相杯日韓学生バスケットボール競技大会(以下季相杯)にて、日本代表選手として小酒部泰暉選手(国際経営・3年)が初選出された。小酒部選手は、全試合先発メンバーとして出場し、エースコアラとしての活躍ぶりをみせた。

19日(日)に開催された第42回季相杯日韓学生バスケットボール競技大会(以下季相杯)にて、日本代表選手として小酒部泰暉選手(国際経営・3年)が初選出された。小酒部選手は、全試合先発メンバーとして出場し、エースコアラとしての活躍ぶりをみせた。

小酒部選手は「日本代表として初めに選出され、非常にうれし」と喜びを語る。「また、日本を背負って戦う自覚と自身の課題を見つけていくことが出来る良い経験となった」と話して話してくれた。小酒部選手は、Bリーグへの選出も将来期待されており、李相伯選手との経験が自信に繋がったに違いない。日本代表を輩出した男子バスケットボール部は、近年活躍が目覚ましい。部を引っ張る河上大彦主将は「チームル部を応援していきたい。」

ムとして、改善の余地がまだまだある」と話す。

続けて「第68回関東大学バスケットボール選手権大会では、自分たちのペースに試合を持ち込めず、反省点も多かった。現在は、ハードワークで動き続ける。泥臭いプレー」が出来ていないので練習で試合に向けた身体作りを徹底していく」と話し、勝身に拘る強い意志を感じさせてくれた。

最後に河上大彦主将は「今年度は、第95回関東大学バスケットボールリーグ戦の1部残留。そして第71回全日本大学バスケットボール選手権大会での優勝を目標としている。持ち味を活かすつ勝利を重ねていきたい」と意気込みを聞かせてくれた。小酒部選手をはじめ、男子バスケットボール部を応援していきたい。

## スポセンのトレーニング講座

皆さん、こんにちは。スポーツセンタートレーナーの齋藤謙虎です。

ジメジメとした毎日ですが、梅雨が明ければ夏本番。今年も蒸し暑い夏が予想されますが、夏バテになる理由の一つが、「エアコンの効いた環境下に体が慣れてしまう事」であるのを皆さんはご存知ですか?

人の体温は、自律神経によって調節され、汗をかき事で熱が体に籠らない様にしているのですが、エアコンの効いた環境では汗をかかなくてもいいので、汗腺の働きが弱くなります。

その結果、身体に籠った体内熱を、体の外へ放出する事が難しくなります。

また、外気との急激な温度変化に体がついて行かず、自律神経が乱れる事で体温を維持する機能が破綻しコントロールが効かなくなるのです。

これをいわゆる「夏バテ」です。これを解決するのが定期的な軽運動 ウォーキングや軽い

是非この機会にスポーツセンターにお越し頂き、夏バテにならないようなトレーニング方法はおもろいこと、お食事などはご相談も喜んでご対応させていただきます。

皆さんのご来館をお待ちしております。

## マネージャー取材日記

今回のマネージャー取材日記は、大学の部活動の中でも特に人気のある男子ラクロス部だ。マネージャーの細井悠佳さん(現ビ・3年)は、高校時代はサイエンス部に所属していたが、大学入学後、マネージャーに転向。そのきっかけは、ラクロス部の雰囲気や良さやマネージャーという部を支える仕事をしてみたいからだったという。

マネージャーの仕事は、練習の準備やタイムキーパー、ビデオの撮影や記録、ドリンクづくりなど、記事・体育会本部 織田裕大(経済・4年)

今回のマネージャー取材日記は、大学の部活動の中でも特に人気のある男子ラクロス部だ。マネージャーの細井悠佳さん(現ビ・3年)は、高校時代はサイエンス部に所属していたが、大学入学後、マネージャーに転向。そのきっかけは、ラクロス部の雰囲気や良さやマネージャーという部を支える仕事をしてみたいからだったという。

マネージャーの仕事は、練習の準備やタイムキーパー、ビデオの撮影や記録、ドリンクづくりなど、記事・体育会本部 織田裕大(経済・4年)



男子ラクロス部 細井悠佳  
多くの仕事を抱えている。また、細井さんは主務も兼任しており、練習場所の使用申請やスケジュール管理など責任のある仕事も務めている。

マネージャーとして心がけていることを聞いてみると、選手がスムーズに練習に取り組み、効率よく練習が進められるように広い視野を持ち、常に先のことを考えて行動することだ。

最後に個人の目標を聞いてみると、自分ならではの気づきを大切に、チームに貢献できる存在でありたいと強く語ってくれた。そんな縁の下の力持ちである細井さんが支える男子ラクロス部なら、今年目標である「1部昇格」を果たせるだろう。

課外活動団体へのご支援をお考えの皆様へ

神大スポーツ・文化振興助成金

QRコードからアクセス

# 今後の活躍に期待!! 神大アスリート特集



4月14日(日)〜6月2日(日)に開催された第25回関東女子サッカーリーグ(以下リーグ戦)1部前期を1位と勝ち点2差の4位で終えた女子サッカー部。リーグ戦1部優勝を目指し、後期の戦いが始まった。

山本珠優主将(国際経営・4年)は「今年はより攻撃的なシステムや戦い方に変えて挑んだリーグ戦。選手たちはリーグ戦を通して成長し新しいスタイルにも手応えを掴んできている」と話してくれた。

練習について「試合にすぐに活かせるように、高度が高い実践形式の練習が多い。現在のモチベーションを更に強化したい」と語る山本主将。

最後に「今年度の目標は、第28回全日本大学女子サッカー選手権大会(以下インカレ)での優勝である。その為にも、第33回関東大学女子サッカーリーグ戦をパーフェクトに駆け抜けたい」と意気込みを聞かせてくれた。今年こそ、インカレで一番高い表彰台の位置に在る姿に期待したい。

第92回全日本学生スキー選手権大会(以下インカレ)男子2部にて春日淳選手(2018年度卒)が15kmフリースキー・10kmクラシカルのクロスカントリー競技で2冠を達成。団体種目においても3×5kmリレーで優勝を果たし、男子2部総合初の男子1部昇格という快挙を成し遂げた。

山本大門主将(国際経営・4年)は「昨年度のインカレで好成績を収めることができ、非常に嬉しい。また大会を牽引した春日選手の練習に対する姿勢と意識の高さに影響を受けた」と語り、今後の目標として「インカレで優勝し、男子1部昇格を達成すること」を挙げ、チーム全体でも実力を発揮できているの、ここに起因している。

最後に「今年度の目標は、男子1部残留である。今後は、強豪選手と戦っていくことになるので、この時期にしっかりとトレーニングを積み、チーム一丸となって試合に臨んでいく」と熱く語ってくれた。今年もスキー部の活躍から目が離せない。

体育会所属の1年生を対象とした2019年度フレッシュユマンキャンブは、6月23日(日)に「さがみ湖リゾートプレジャーフォレスト」で開催され、施設内にあるワイルドキッチンガーデンにて、全団体の新入生たちが合同でバーベキューを行った。

このキャンブの目的は「体育会各部の横のつながりを強めること」であり、様々な団体との混合班で、火起こしから調理、バーベキュー、片付けを行い、お互いの親睦とコミュニケーションを深めた。

1年生は明るく活発で、さすがスポーツ選手と感じさせる協調性や、各班のチームワークを見せてくれ、各々がとても楽しんでくれた。

今回のフレッシュユマンキャンブで生まれた絆を超えたつながりを、これからも忘れずにお互いを高め合って、神奈川県立体育会の更なる発展につなげて欲しい。

体育会本部 尾澤 美里(人科・4年)

5月14日(火)神奈川県横浜キャンパス16号館セレストホールにて体育会入会式が開催された。本会は体育会に入会する新入生を対象とした行事であり、今年も多くの新入生を迎えることができた。

三浦大介副学長をはじめ、多くの来賓の前で各部活動の主将と新入生が登壇し、今季の抱負が発表された。

新たな出発点に立った新入生は、これから始まる大学生活に多くの期待を抱き、体育会の活動を行っていく。この入会式を機に、神奈川県立体育会の一員としての自覚を持ち、チームに貢献できるメンバーになってもらいたい。

新入生の今後の活躍に期待している。

体育会本部 川井 奈美(人科・4年)

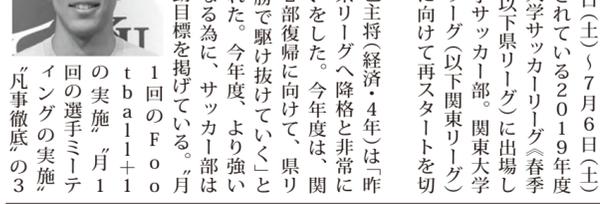
## 女子サッカー部 WOMEN'S FOOTBALL



**今年こそインカレ優勝を目指して!!**

また、新しい試みとして、ビーチサッカーとフットサルを強化・育成に取り入れている。フットサルでは、今年から神奈川県女子サッカーリーグへ参戦している。

## サッカー部 FOOTBALL



4月27日(土)〜7月6日(土)まで開催されている2019年度神奈川県大学サッカーリーグ(春季リーグ)(以下県リーグ)に出場している男子サッカー部。関東大学サッカーリーグ(以下関東リーグ)2部復帰に向けて再スタートを切った。

白井達也主将(経済・4年)は「昨年度は、県リーグへ降格と非常に悔しい思いをした。今年度は、関東リーグ2部復帰に向けて、県リーグを全勝で駆け抜けていく」と話してくれた。今年度、より強いチームになる為に、サッカー部は以下の行動目標を掲げている。「月1回のFootballerの実施。月1回の選手ミーティングの実施。凡事徹底の3つである。」Footballerとは今年度より監督に復帰した大森西三郎監督が考案した行動であり、地域に貢献する活動を通して人間として成長を目指すものである(※詳しくは、3面指導者インタビュー参照)。「サッカーの練習やピュアサポート賞を受賞し、並行して、地域貢献やミーティングを繰り返していくことで、選手1人1人に限らず、チームとしての成長を実感している。メンタルコントロールがしやすい環境を創り、強豪校との試合に臨んでいきたい」と白井主将は話してくれた。

最後に「チームの目標は、関東リーグ2部復帰。そして総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント関東代表決定戦を勝ち上がり、本戦でも結果を残したい」と熱い思いを語ってくれた。選手として1人の人間として成長していく姿に今年度は目が離せない。

## 関東リーグ2部復帰に向けて!!



つである。「Footballer」は今年度より監督に復帰した大森西三郎監督が考案した行動であり、地域に貢献する活動を通して人間として成長を目指すものである(※詳しくは、3面指導者インタビュー参照)。「サッカーの練習やピュアサポート賞を受賞し、並行して、地域貢献やミーティングを繰り返していくことで、選手1人1人に限らず、チームとしての成長を実感している。メンタルコントロールがしやすい環境を創り、強豪校との試合に臨んでいきたい」と白井主将は話してくれた。

最後に「チームの目標は、関東リーグ2部復帰。そして総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント関東代表決定戦を勝ち上がり、本戦でも結果を残したい」と熱い思いを語ってくれた。選手として1人の人間として成長していく姿に今年度は目が離せない。

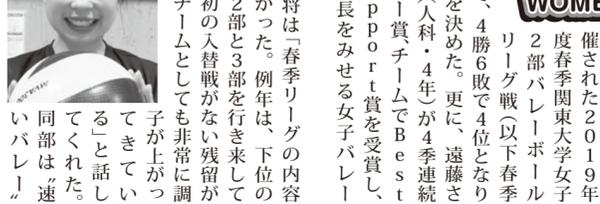
## スキー部 SKI



**創部初の1部昇格!!**

選手の体力測定データを参考に目標の数値を定め、データ比較をしながら実施している。また選手間コミュニケーションも、チーム全体でも実力を発揮できているの、ここに起因している。

## 女子バレーボール部 WOMEN'S VOLLEYBALL

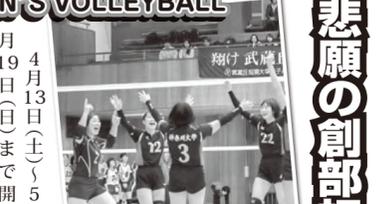


4月13日(土)〜5月19日(日)まで開催された2019年度春季関東大学女子バレーボールリーグ戦(以下春季リーグ戦)で、4勝6敗で4位となり2部残留を決めた。更に、遠藤さやか主将(人科・4年)が4季連続のセッター賞、チームでBest of support賞を受賞し、更なる成長をみせる女子バレーボール部。

遠藤主将は「春季リーグの内容は悪くなかった。例年は、下位の入替戦で2部と3部を行き来していたが、初の入替戦がない残留ができた。チームとしても非常に調子が上がってきた」と話してくれた。同部は「速いバレー」で、お馴染みだが、今年度は低いパスを心掛けたレシーブと得点の要となるアタックにも力を入れ、更に進化した「速いバレー」を目指している。チームの雰囲気について「新入部員4人の内2人が全国大会経験者で非常に心強い戦力を迎えた。チーム全体も非常に仲が良く、コミュニケーションもしっかりと取れている」と話す遠藤主将。選手たちの練習風景も、積極的に声を掛け合っている姿が印象的であった。

最後に「秋季リーグで、必ず1部との入替戦に出場し、創部初の1部昇格を果たしたい」と熱い思いを聞かせてくれた。今年こそは、女子バレーボール部が1部昇格を成し遂げてくれるに違いない。

## 悲願の創部初の1部昇格!!



お馴染みだが、今年度は低いパスを心掛けたレシーブと得点の要となるアタックにも力を入れ、更に進化した「速いバレー」を目指している。チームの雰囲気について「新入部員4人の内2人が全国大会経験者で非常に心強い戦力を迎えた。チーム全体も非常に仲が良く、コミュニケーションもしっかりと取れている」と話す遠藤主将。選手たちの練習風景も、積極的に声を掛け合っている姿が印象的であった。

最後に「秋季リーグで、必ず1部との入替戦に出場し、創部初の1部昇格を果たしたい」と熱い思いを聞かせてくれた。今年こそは、女子バレーボール部が1部昇格を成し遂げてくれるに違いない。

# フレッシュユマンキャンブ

体育会所属の1年生を対象とした2019年度フレッシュユマンキャンブは、6月23日(日)に「さがみ湖リゾートプレジャーフォレスト」で開催され、施設内にあるワイルドキッチンガーデンにて、全団体の新入生たちが合同でバーベキューを行った。

このキャンブの目的は「体育会各部の横のつながりを強めること」であり、様々な団体との混合班で、火起こしから調理、バーベキュー、片付けを行い、お互いの親睦とコミュニケーションを深めた。

1年生は明るく活発で、さすがスポーツ選手と感じさせる協調性や、各班のチームワークを見せてくれ、各々がとても楽しんでくれた。

今回のフレッシュユマンキャンブで生まれた絆を超えたつながりを、これからも忘れずにお互いを高め合って、神奈川県立体育会の更なる発展につなげて欲しい。

体育会本部 尾澤 美里(人科・4年)

## 指導者インタビュー

男子サッカー部 監督 大森 西三郎

今回の指導者インタビューは、2019年3月より神奈川県立体育会男子サッカー部の監督に再就任した大森西三郎監督に話を聞いた。

大森監督は、中央大学卒業後、選手として海上自衛隊厚木基地マカスの立ち上げに参加。県社会人2部リーグから関東1部リーグ昇格の原動力となる。1998年の神奈川県立体育会に監督兼選手として出場し、優勝に貢献。現役引退後、2004年より神奈川県立体育会サッカー部監督に就任。同部は、2007年には関東リーグ1部昇格となる。短期間で1部昇格が評価され、湘南ベルマーレフットボールアカデミーディレクターに就任。2011年に、神奈川県立体育会男子サッカー部監督を退くが、2019年3月より監督に再就任した。

「私たちは、勝敗のみを追い求めるのではない。サッカーをツールとして、どう学生を育成していくかが重要だ」と話す大森監督。「重点強化部は、神奈川県立体育会の理念に沿った学生アスリート宣言を掲げている。これをサッカー部の全活動に落とし込むことが求められている」と話してくれた。活動の一例として、以前から男子サッカー部が実践している「Footballer」がある。

誕生したきっかけは、海上自衛隊厚木基地マカス時代になる。

「私たちは、勝敗のみを追い求めるのではない。サッカーをツールとして、どう学生を育成していくかが重要だ」と話す大森監督。「重点強化部は、神奈川県立体育会の理念に沿った学生アスリート宣言を掲げている。これをサッカー部の全活動に落とし込むことが求められている」と話してくれた。活動の一例として、以前から男子サッカー部が実践している「Footballer」がある。

誕生したきっかけは、海上自衛隊厚木基地マカス時代になる。

という。「自衛隊には、パイロットもいれば、草刈りや調理をしている人もいます。基地を運営するには、必要なことは存在しないと知ることが出来た。サッカーは、格好の良いところが目に映りがちだが、1試合90分の内、プレータイムは60分、ボールを触っているのは約2分だけ。ボールを扱う2分だけが重要ではなく、それ以外の時間でチームを支えるプレーの質が重要だ」と語る。1日2時間のサッカーを熱心に練習することも重要だが、それ以外の時間での活動である中山キャンパス郊外の清掃活動やサッカー教室などが、選手として、また人間として成長させるに確信している。

最後に「私たちのビジョンは『神奈川県立体育会アスリート宣言を体現する為に、日本一真面目にサッカーに取り組んで世界を目指すこと』である。その為の組織作りを徹底したい」と話してくれた。大森監督指導の下、男子サッカー部の成長に注目していきたい。



### 陸上競技部 EKIDEN TEAM

## チーム丸となって シールド権獲得へ!!

5月23日(木)〜26日(日)に開催された第98回関東学生陸上競技対校選手権大会(以下関カレ)にて、男子3000m SCで西方大珠選手(人科・2年)が4位入賞。男子10000mでは、越川堅太選手(人科・4年)が10位、井出孝一選手(人科・3年)が11位を記録した陸上競技部駅伝チーム。第96回東京箱根間往復大学駅伝競走(以下箱根駅伝)本大会でのシールド権獲得の為に、新たにスタートを切った。

安藤駿主将(人科・4年)は「関カレでは、怪我で本来の実力を出し切れなかった選手も多かった」と振り返る。「新入部員も徐々に緊張がほぐれてきているので、調子は上がってきている。今後の選手の飛躍の為に、この時期が正念場だ」と話して話してくれた。

今年度の新入部員は、入部すべの各大会でも活躍している選手も多く、非常に期待が出来るという。「今年度は、選手一人一人の特性を活かして練習に取り組んでいる。自分の体調をしっかりコントロールして、より良いパフォーマンスを発揮してほしい」と話す安藤主将。自主性を重視した練習や寮生活で、更に進化した陸上競技部駅伝チームになることを期待した。

最後に「今年度の目標は勿論箱根駅伝本大会でのシールド権獲得である。その為に、夏合宿で選手一人一人の強化を図り、チーム一丸となって走り抜けていく」と熱い思いを語ってくれた。今年もシールド権獲得に向けて、プラウダブルの櫂が箱根を駆け抜ける姿が非常に楽しみである。



### アメリカンフットボール部 AMERICAN FOOTBALL

憧れの舞台! 1部リーグ TOP8へ!!

2018年度関東学生アメリカンフットボールリーグ戦(以下リーグ戦)2部にて7戦全勝を達成。続くチャレンジャーマッチ・A代替戦でも勝利し、1部リーグBIG8昇格を果たしたアメリカンフットボール部Atom's。1部リーグTOP8を目指し、新たなスタートラインに立った。

9月から始まるリーグ戦に向け、坂本アントニーマウネディ主将(現ビ・4年)は「チーム全員がリーグ戦まで時間がない事を自覚する必要がある。現在戦っている春季オープン戦でも課題があるので、日々の練習でも1プレーにこだわってチーム全体で克服していく」と語ってくれた。そして4月から新入部員が加わったことについて、「多くの部員は未経験者であるが、我々も教える事によって、プレーについて再認識することが出来る重要な時間になっている」と語り、どんな場面でも個々の成長に繋げる意識の高さが同部の飛躍の原動力になると話してくれた。

最後に「私たちが4年生を主軸としたチーム全体で、1部リーグTOP8昇格を目標に、憧れの舞台で後輩たちと試合に臨み、そして一人でも多くの方に会場に来ていただき、応援して頂けるようなチームを目指す」と熱く語ってくれた。

今年も飛躍を続けるアメリカンフットボール部Atom'sを応援していきたい。



### チアリーディング部 CHEER LEADING

## 新体制で更に進化した応援へ!!

主に重点強化部の試合に駆け付け、笑顔とパフォーマンスで選手の手を後押しするチアリーディング部。注目すべき点は、チアリーディングの大会には欠かせず、神大の応援に特化していききたい。

鈴木彩乃主将(経済・3年)は「今年度の新入部員は6名と少なめだが、その分一人一人に費やせる時間も多し。まだ緊張している部員に対して、積極的にコミュニケーションを取っていきたい」と話してくれた。今年度は、選手を空中に飛ばし演技を行うトスの新技練習をはじめ、フラッグやボードを使用した技も増やし、演目の幅を広げている。「同じ演目を続けていると、試合に臨む選手や一緒に応援してくれる観客にも飽きが出てしまう」とも語る。神大チア部の伝統を守りつつ、変化も入れ込んだ演目を創造していきたい」と話す鈴木主将。「神大」のチアリーディングの在り方に真摯に向き合っている姿が印象的であった。

最後に「時間はあっという間に過ぎてしまう。練習の質を高め、私たちが3年生がしっかりと部を引っ張り、去年よりも成長を遂げたチア部を見てもらいたい」と話してくれた。試合に華を添えてくれるチア部と一緒に各競技で活躍する選手たちを応援していきたい。

### 文化系だより vol.22

読めない人や学年の途中から入部してはいいのだろうか?

「音楽を聴きに来られるお客様に心地よく感じてもらうには、私たちが楽しく演奏できる環境をつくれるかに限る」と話す堀尾拓誠団長(法律・3年)。管弦楽団は、主に週3日活動しており、パトリオリズムをメインとして、個人の能力をみながら練習に励んでいる。半期に3回は現役プロが直接指導してくれるところも非常に魅力的である。「部員の中には、楽譜が読めない人や学年の途中から入部してはいいのだろうか?」



管弦楽やオーケストラと聞くと、楽器未経験では難しく、ましてや大学からとなると、入部へのハードルは上がるのではないだろうか?そんなあなたには、神奈川県立音楽院で演奏している。堀尾団長は「子どもたちに聴いてもらうような曲を選んでみる。『さんぽ』や『結婚行進曲』など誰もが知っている曲から音楽の楽しさを感じて欲しい」と話す。他大学との交流も豊富で「年に1回『交歓会』という演奏会を実施している。200名近い人数での演奏は圧巻で、一体感が生まれる。多くの方と交流ができるのも魅力の一つである」と谷島副団長が続けて話してくれた。

最後に「管弦楽団は、色んな音楽の楽しみ方が出来る。大学のホリデーから活動状況がわかれば、少しでも興味ある方がいたら一度遊びに来て欲しい」と話す堀尾団長。音楽好きだが未経験で不安という方も一度見学に行ってみてはいいのだろうか?



## 管弦楽団

音楽を心から楽しみたいあなたへ!

### 大学からはじめられる オーケストラの世界へ!